

## 地域におけるリタイア土木技術者の活動例

NPO法人シビルまちづくりステーション 理事職  
比奈地 信雄

リタイアをした土木技術者の社会貢献が色々と取りざたされています。小生も65歳でリタイアしましたがそれまで地域の活動や行事にあまり参加しなかったことを反省し何か地域に役立つことはないかと考えておりました。そんな時まちづくり区民の会のメンバーになることを勧められ良い機会だと思い、参加する事に致しました。小生の住んでいる横浜市瀬谷区は横浜の西の端の小さな区で市の中心部に比べ道路の整備が相当遅れています。瀬谷区も都市部の郊外地域の開発パターンの例に漏れず江戸時代から続いている街道や農道がそのまま地域の生活道路として使われています。従って道路は狭い道が至る所にあり緊急車両の通行や、スクールバスの通学路に支障をきたし問題になっております。

瀬谷区のまちづくり区民の会の道路交通プロジェクト外では何とか安心して歩ける道路にしようと課題を洗い出し検討しています。都市計画道路の整備が遅れているため区内を通過する車両が生活道路に流入し、狭い道路と相まって通行者が危険にさらされているのが現状です。数年前までは道路の拡幅や歩道の新設を要望し、提案しておりましたが所詮現行の財政状況では実現は望むべくもありませんでした。そこで具体的に成果が上がる施策について通学路の安全対策に絞って検討する事にしました。その一つに学校までの通学路の左端に緑色にペイントするカラーベルトレーンが効果が上がっており区民の会としても推奨する事にしました。この施策は条例で道路幅員が6メートル以上無いと設置出来ないと規定されており、幅員が6メートル以下の区間は設置されないという箇所が多々生じています。この間児童たちは早足で危険箇所を通過するという事態になっております。区民の会として改善を提案しておりますがまだ改善は行われておりません。その他「ゾーン30」や自転車レーン設置の提案を行っております。

各種説明会や提案に対する意見聴取に対して積極的に参加しておりますが説明や提案内容が技術屋特有の専門用語で説明するため一般住民が完全に理解されていないように思われます。区民の会の道路交通プロジェクト外や自治会の道路対策委員会に参加している小生は出来るだけ判り易く翻訳し、事業の問題点等を説明するようにしております。しかし説明の仕方によっては事業者側の代弁者と取られ、かえってマイナスになる恐れがあります。このあたりが土木技術者としてどのようにインフラ整備に関与すべきか、どのように貢献できるか難しい課題と感じています。



車の危険を避けながらの児童の通学風景

以上